



いざいざ！  
キジカケル！



梅の季節がやって来ました。薩摩川内市内で梅の名所と聞いて思い付くのは、東郷町藤川天神の臥竜梅。(この写真の樹はヒカンサクラです) そこで今回は、藤川天神を中心として東郷地域を探検してみたいと思います。



**藤川天神の由緒**  
東郷町藤川地区にあり、一般に、「藤川天神」と呼ばれ親しまれるこの神社は、学問の神様として親しまれている菅原道真公(菅公)がまつられています。

延喜元年(901年)、共に国政を担当していた藤原時平のそり(誹謗)にあい、大宰府に左遷された菅公は、その後も、時平の陰謀を恐れて、大宰府で病死を装い、ひそかに舟で薩摩に下り、ここ東郷町は藤川北野で静かに余生を送ったといわれています。

「菅原神社」とも呼ばれるここ藤川天神は、毎年、大みそかから三日には、大勢の初詣客でにぎわいます。また受験シーズンには、学問の神様にあやかり、合格を祈願する受験生や家族などでにぎわうのです。菅原道真については、14ページの「深発見!きつませんたい歴史文化遺産」でも詳しく紹介しています。併せてご覧ください。

**藤川天神の臥竜梅**

境内には、菅公が自ら植えた一株が繁茂したといわれる300本の梅園があり、地を這いながら幹を伸ばすその姿が竜のように見えることから「臥竜梅」と名が付けられています。

そして、菅公の墓所とも言われる石垣の囲いの中の55本は、昭和16年に「藤川天神の臥龍梅」として、国の天然記念物に指定されています。毎年2月中旬から3月上旬には薄いピンク色の花を咲かせ、その甘い香りとともに訪れる人たちの心を和ませます。

また、あまり知られていませんが、神社から少し離れた久留須という所にも梅の古木があります。菅公がここで休息した時、先祖の老婆が出迎えてお茶を捧げ、道真が残した茶じおけの梅の核が目を出したのといひ伝えられています。

久留須の梅は、白い花ではありませんが臥竜梅と同じ梅の木だそうです。そこは、車の離合も難しいほど、道も狭い所ですが、気付かれた時には立ち寄って、色合いの違う梅の花を眺めてみるのもまた一興です。



**西郷つんがお出迎え**



通りには「西郷どん」こと西郷隆盛の愛犬つんの銅像がお出迎えしてくれます。

つんは、明治7年に川内高城温泉に湯治に訪れた西郷さんが、ウサギ狩りの途中でここ藤川に立ち寄ったことがきっかけで西郷さんとお会いします。

ウサギ狩りに長けていたつんは、飼い主の前田善兵衛さんから西郷さんに紹介されると、犬好きの西郷さんに大変かわいがられ、つんもよく懐いたといえます。そして、それを縁にして、後に西郷さんは、前田善兵衛さんからつんを譲り受けることに。

そんなお話を元にして、平成2年大河ドラマ「翔ぶが如く」の放送に合わせて建立されたつんの銅像は、今にもウサギに飛び掛かりそうなリアルな造形で佇んでいます。

**他にもこんな見所が**



ほとんどのの方が車で来られるので、通り過ぎてしまう入口の鳥居も風格さえ感じられるその構えと石段で雰囲気抜群です。

また、神殿の奥には、「木をうつりて ひよどり鳴けり 家のうらの杉の木立はいまだくらきに」と記された藤川出身の歌人、森園天涙の歌碑が神殿を見守るように佇んでいます。



次のページからは、藤川天神に負けず劣らずの東郷地域の魅力を紹介していきます。